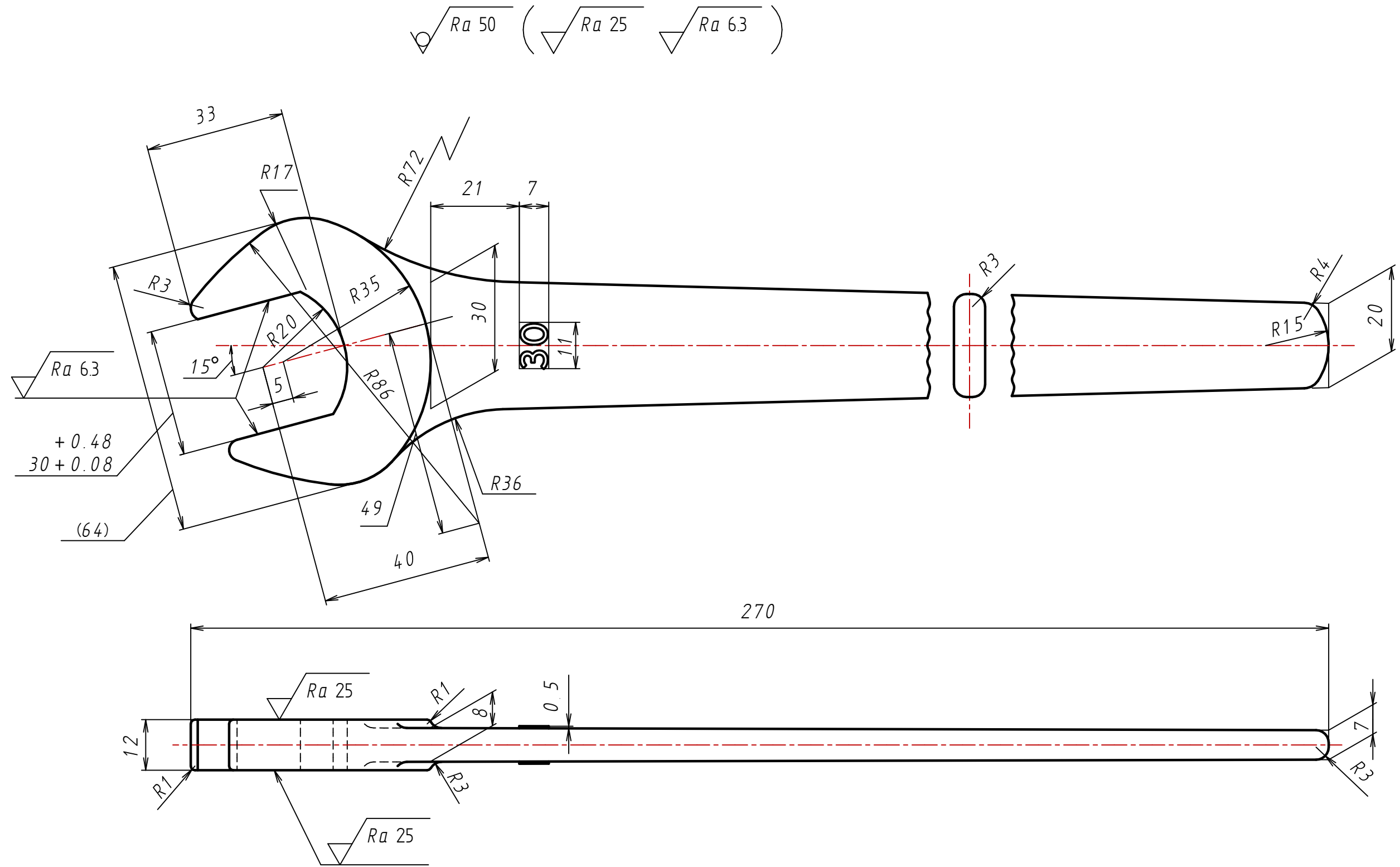
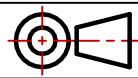


照合 番号	品名	材料	個数	工程	記事
1	やり形片ロスパナ	SF390	1	タ.キ	



注. 呼び寸法を示す数字は両面浮出しのこと.

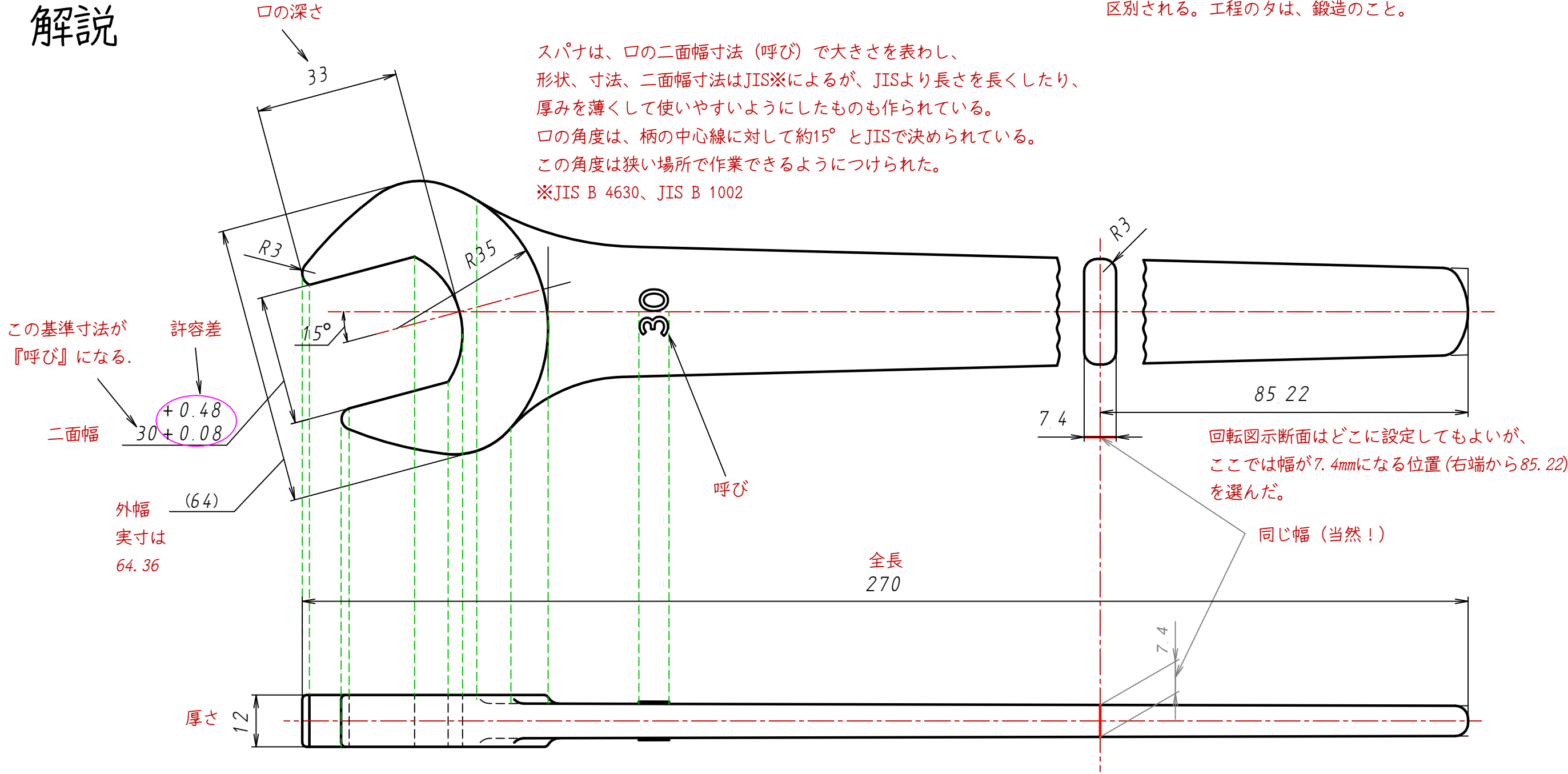
氏名		年組番		校名	
形式	やり形片口30	提出日	.	尺度	1:1
図名	やり形片ロスパナ			図番	2-5-k6-3



照合 番号	品名	材料	個数	工程	記事
1	やり形片ロスパナ	SF390	1	タ.キ	

SFとは、炭素鋼鍛鋼品のことで、規格で定められた鍛造比を十分かけた品物をいい、鍛造品（たたいて成形したもの）とははっきりと区別される。工程のタは、鍛造のこと。

解説

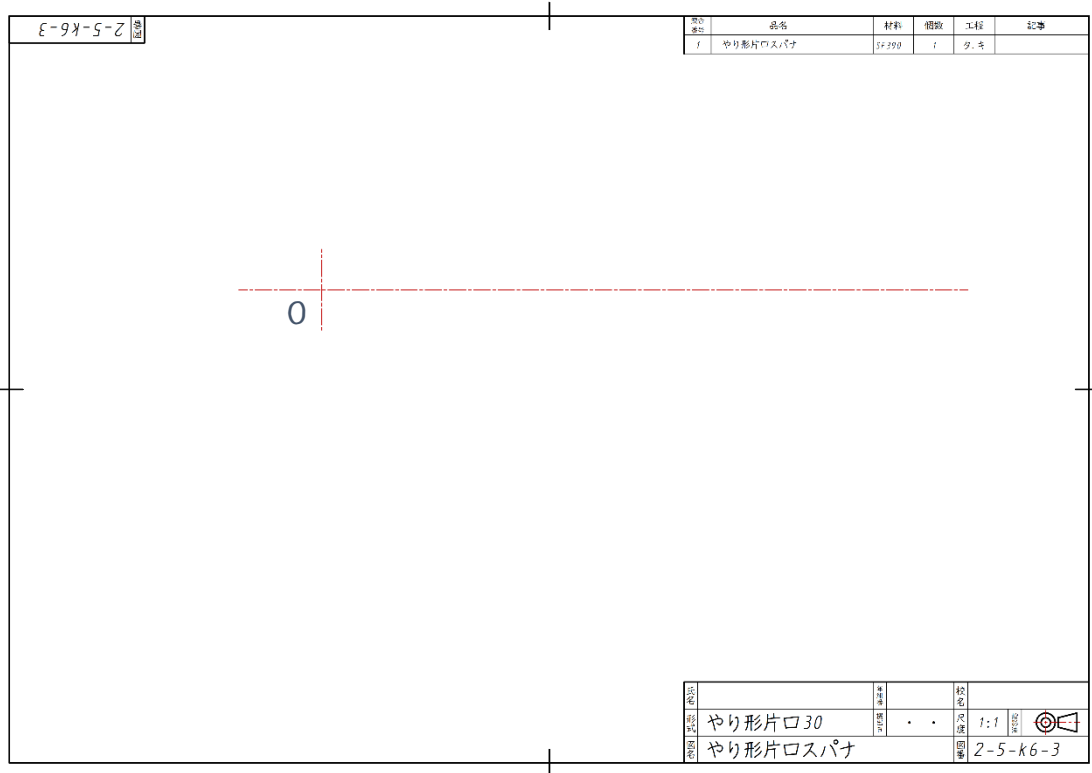


片方だけに口を持ったものを片ロスパナ、
両方に口を持ったものを両ロスパナという。
また頭の形が丸形と、とがっているやり形がある。

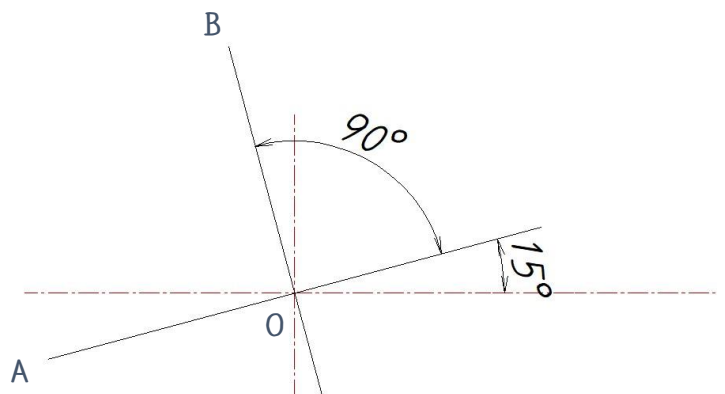
氏名		年組番		校名	
形式	やり形片口30	提出日	・	尺度	1:1
図名	やり形片ロスパナ	図番		投影法	第一角法
				図番	2-5-k6-3

(1) 正面図の書き方

① スパナの全長を考え、中心線をかき、原点 (O) を決める。

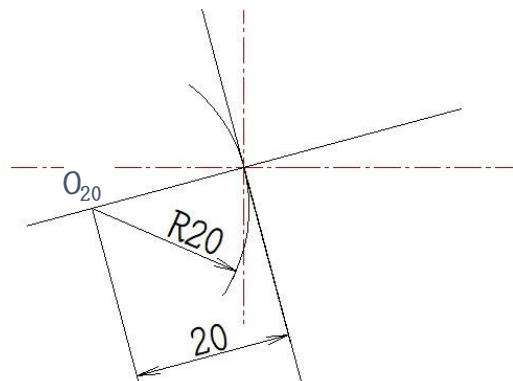


② Oを通る15° の線Aと、Aと直交する線Bを引く。

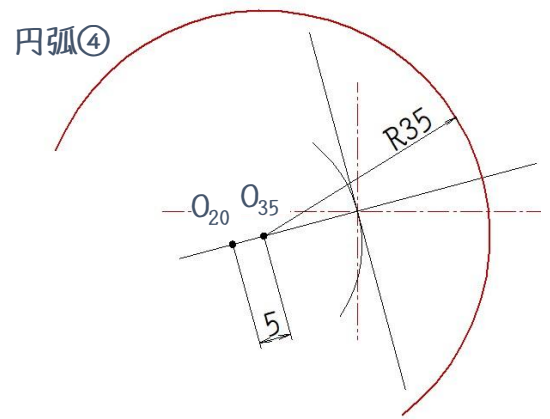


③ A線上に点Oから20離れた点 (O₂₀) を取る。

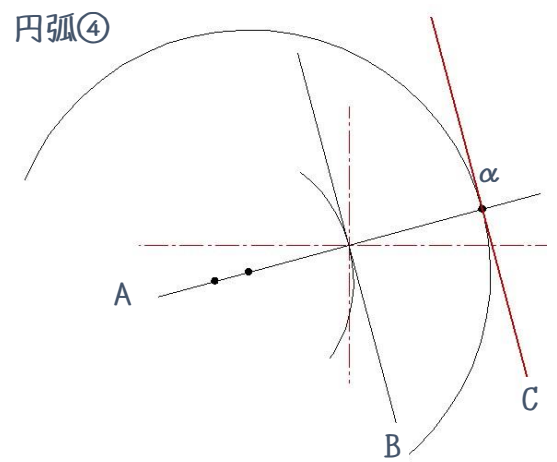
O₂₀を中心としたR20の円弧をかく。



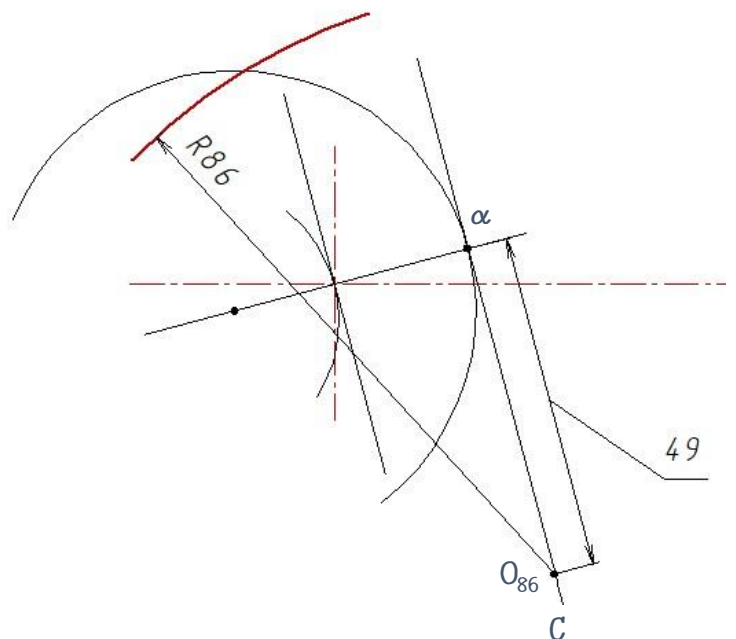
- ④ A線上に点 O_{20} から5離れた点 O_{35} を取り、 O_{35} を中心としたR35の円弧④をかく。



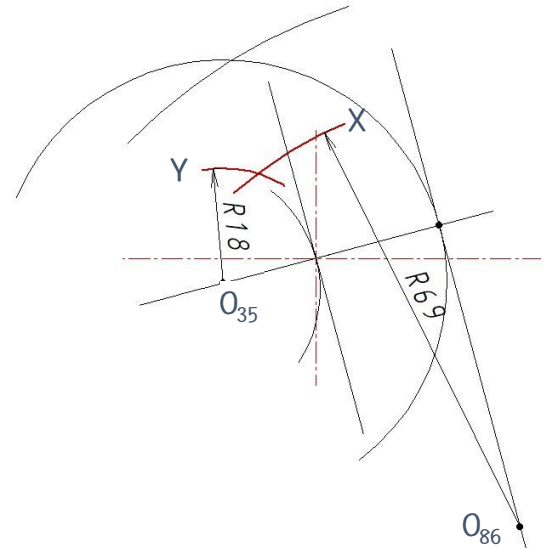
- ⑤ A線と円弧④との交点を α とする。 α を通りBに平行な線Cをかく。



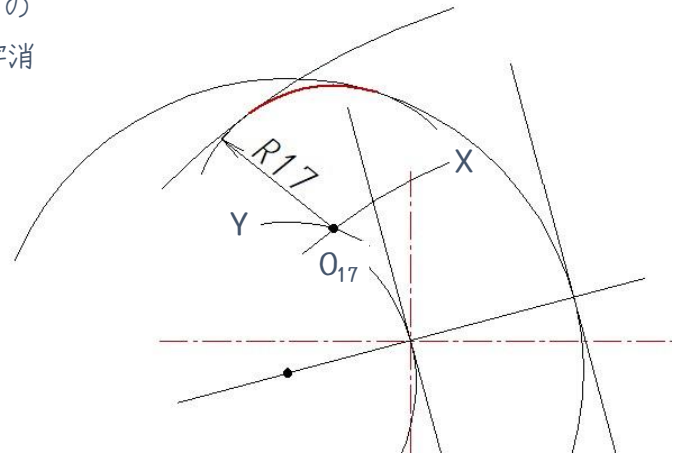
- ⑥ C線上に点 α から49下の点 O_{86} を取る。 O_{86} を中心とするR86の円弧をかく。



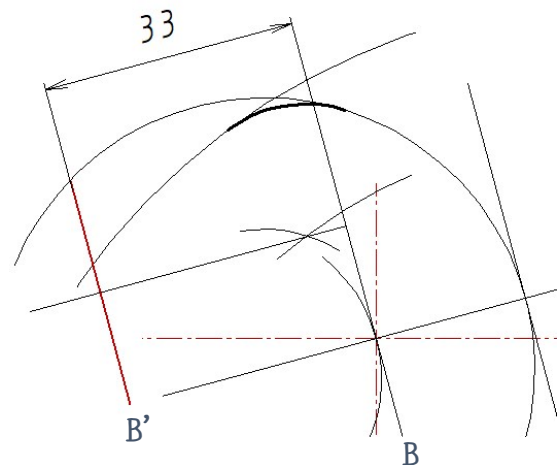
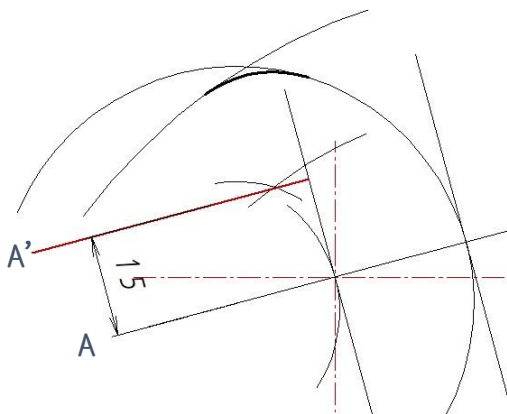
- ⑦ O_{86} を中心とする $R(86-17)=R69$ の円弧Xと、
 O_{35} を中心とする $R(35-17)=R18$ の円弧Yをかく。



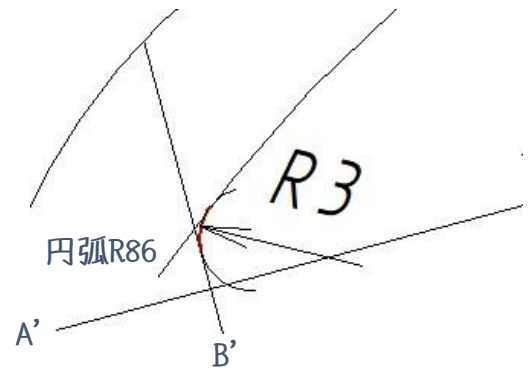
- ⑧ XとYの交点 O_{17} を中心として、 $R17$ の円弧をかく。この円弧の赤線部分を濃くはっきりかく。不要部分は字消し板を使い、きれいに消す。



- ⑨ 直線Aと平行で15離れた線A' (スパナの口)を書く。 ⑩ Bに平行な33離れた線B'を書く。

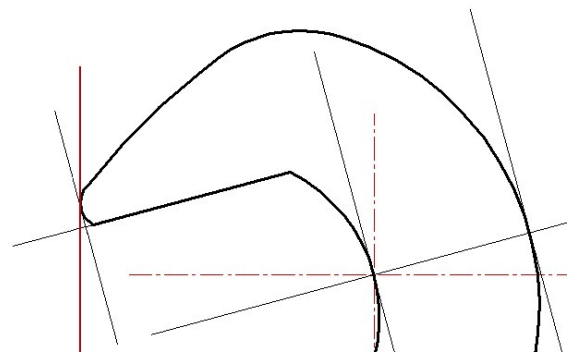
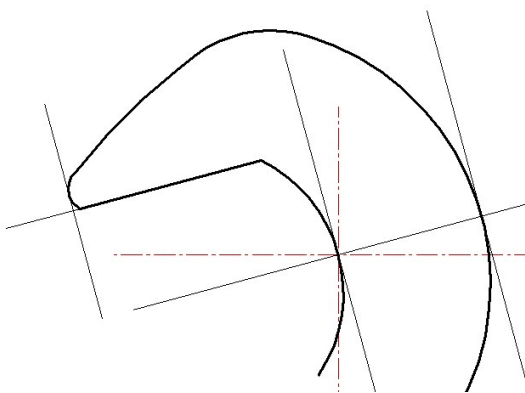


- ⑪ R86の弧とB'に接するR3の円弧を書く
(テンプレート使用)。不要な部分を消す。



- ⑫ 不要な線を消す。

- ⑬ スパナの先端に接する垂直な線を引く。

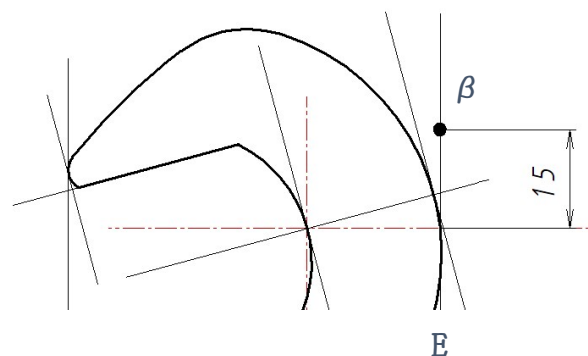
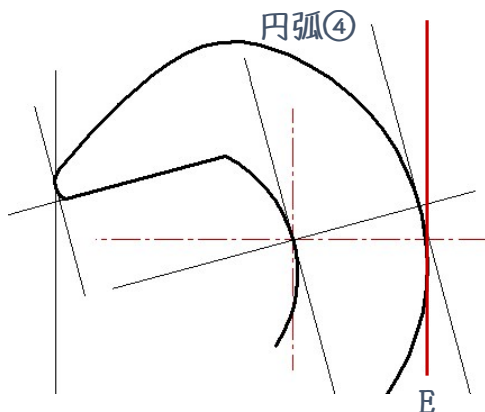


- ⑭ 線⑬から270右に垂線Dを引く。D上に中心線から10離れた点βを取る。

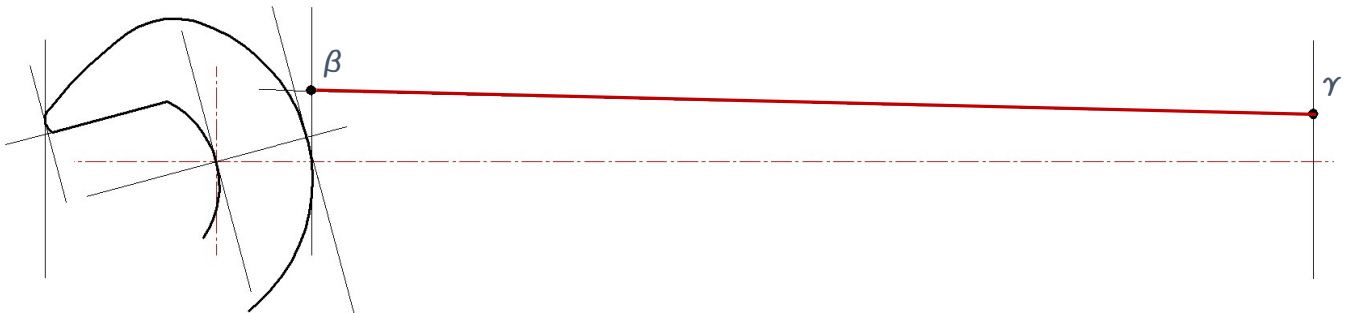


- ⑮ 円弧④と中心線の交点を通る垂線Eを引く。

- ⑯ E上に中心線から15離れた点βを取る。



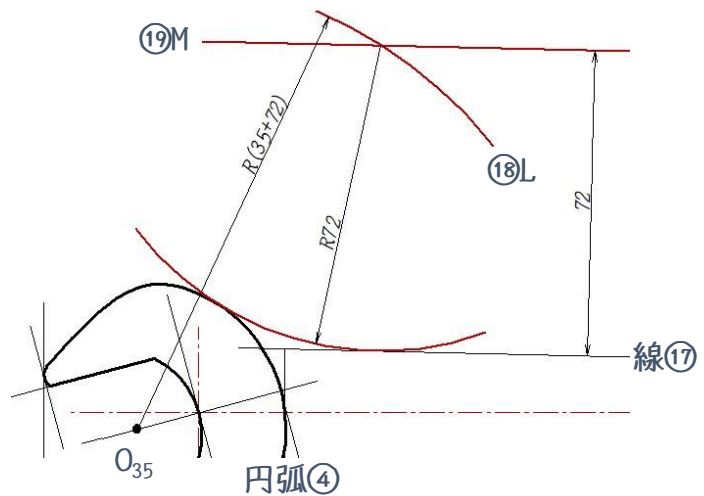
①⑦ β と γ を薄い線でつなぐ。左側は円弧まで延ばす。



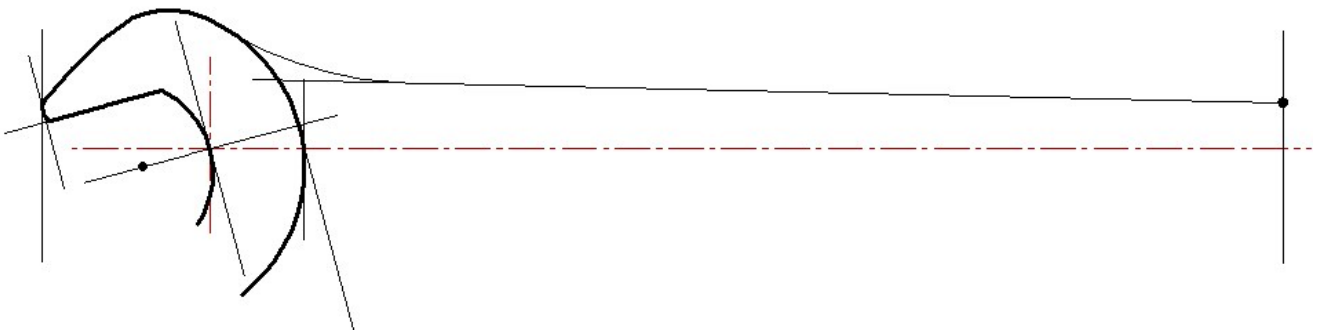
①⑧ O_{35} を中心とする $R(35+72)$ の円弧Lを書く。

①⑨ 線①⑦に平行で72離れた線Mを書く。

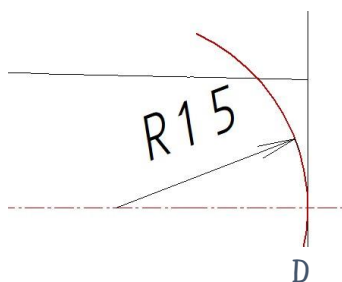
②⑩ LとMの交点を中心とする $R72$ の円弧を、
円弧④と線①⑦に接するようにかく。



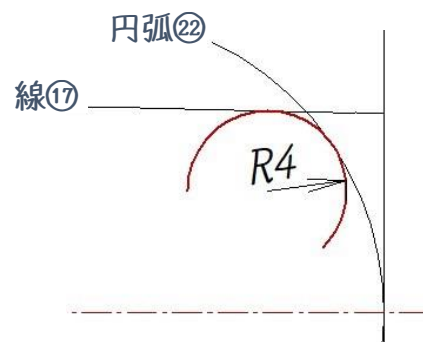
②⑪ 不要な線を消す。



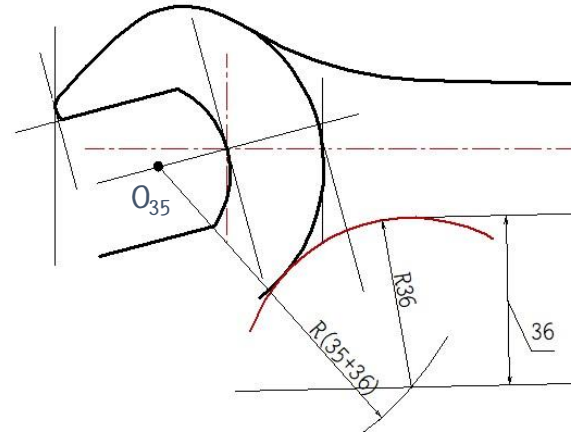
②⑫ 線Dに接する $R15$ の円弧を書く（テンプレート使用）。



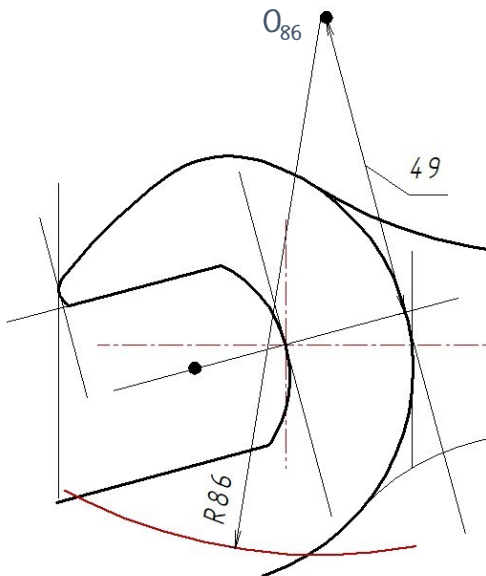
②⑬ 円弧②⑫と線①⑦に接する $R4$ の円弧を書く（テンプレート使用）。



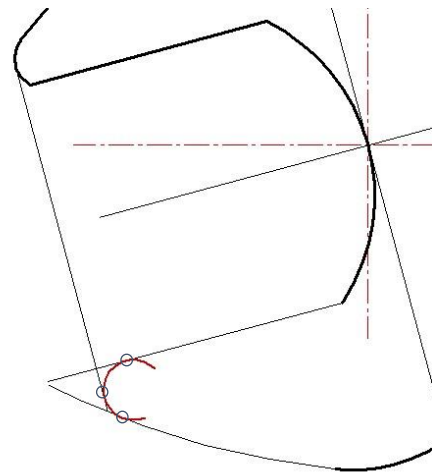
- ②④ 下側も同様にかく。※R36の部分に注意。⑮で72だった部分を36に変更する。不要な部分を消す。



- ②⑤ ⑥と同様に、C線上に点αから49上の点O86を取る。O86を中心とするR86の円弧をかく。



- ②⑥ ⑦～⑪と同様にして、下側をかき、不要な線を消す。

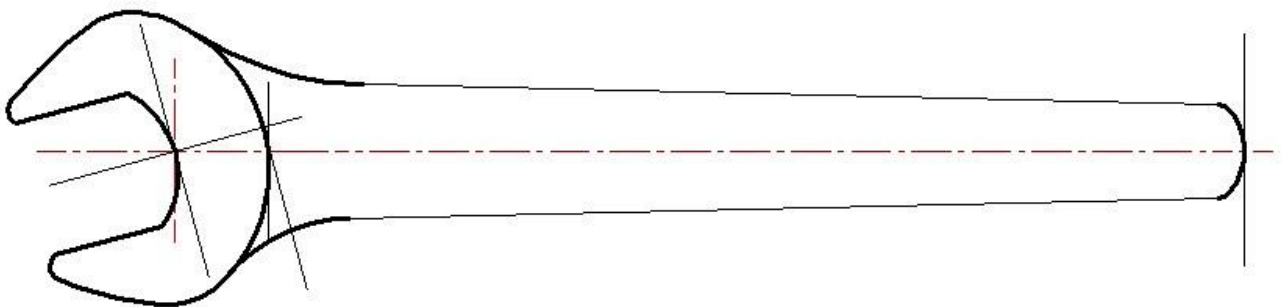


- ②⑦ ②②③と同様に、下側の後端のRをかく。

下側の先端部Rの拡大図 (○は接点)

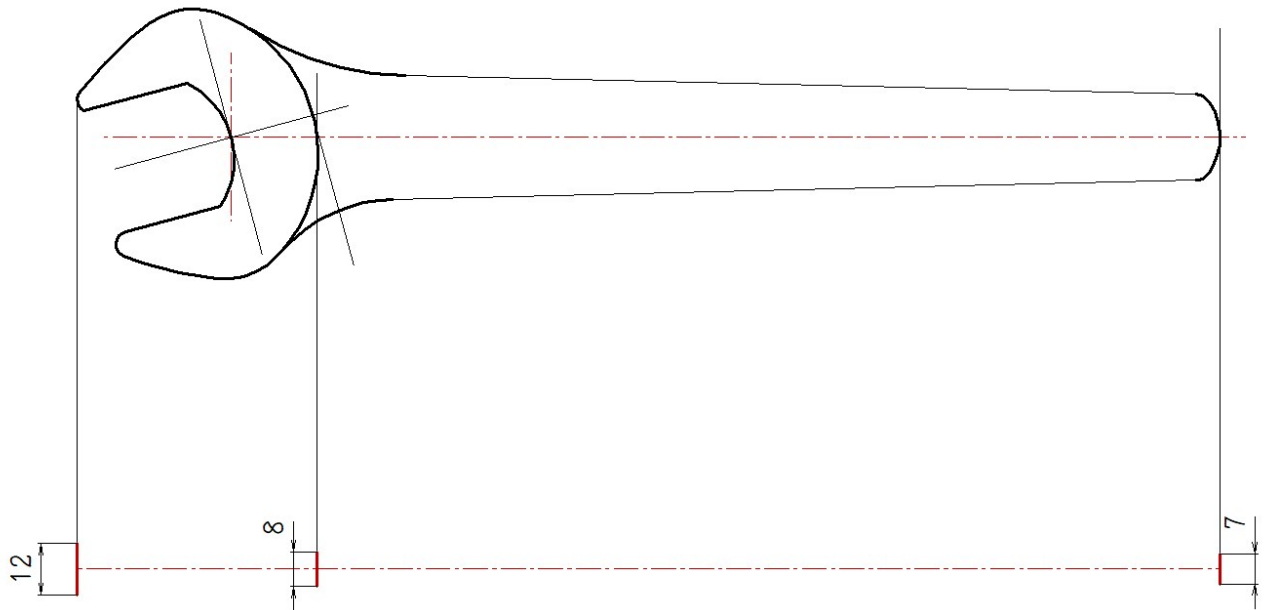
- ②⑦ 正面図完成!

(手書きの場合) ハンドル部は、あとで断面図を入れるので、薄い線のままにしておく。



(2) 下面図の書き方

① 正面図に合わせて、図のように長さ12、8、7の縦線をかく。



② 外形を薄くかく。



③ 下図を参考に縦線を薄くかく（○は接点）。

④ A部のかき方。角をR1の弧で丸める。

